



おかげさまで、創設25年

夏の風物詩となったおかげ祭り。25年目を迎える記念として制作したみこしが4月23日、神社宮に奉納されました。高さ2・3層のみこしは漆黒に塗られ、金箔で装飾された荘厳な作り。おかげ祭り振興会が、市民からの協賛金や寄付金を元に新調しました。かねや笛、太鼓に合わせて、約100人が都城駅前まで練り歩き、駅前では、獅子舞や奉納太鼓も披露されました。沿道では、みこしを撮影しようと足を止める人も見られました。7月9日の本祭りでは実際に担いで巡行する予定です。



おかげ祭りみこし巡行

都城の昔に触れる

学習教材「絵本都城の歴史」の完成を記念した企画展が4月28日から9月3日まで、都城歴史資料館で開催されています。本県出身のイラストレーター早川和子さんが描いた挿絵の原画とともに、さまざまな時代の人々が実際に使っていた道具を展示し、都城の昔を分かりやすく紹介。ゴールデンウィークには、県内外から多くの人たちが来館し、都城の昔に思いをはせていました。横山萌乃香さん(大王小6年)は「破片をつなぎ合わせ再現された土器に驚いた」と貴重な展示品に感心していました。



企画展「絵本都城の歴史」の世界

新緑まぶしい笛水を歩く

自然や地元の人たちとの触れ合いを楽しむ「笛水ウォーク」が4月29日、高崎町笛水地区で開催されました。今年で10回目を迎えた催しに、市内外からの参加者と地元住民約100人が参加。参加者らは、地区内の林道などを巡り、初夏の里山を散策した後、手作りのかねやそばなどの振る舞いに舌鼓を打っていました。友人家族と参加した山下夏代さん(高城町大井手)は「天気にも恵まれ気持ち良く歩けた。地元の人たちとの会話も楽しかった」と、散策と交流を満喫していました。



笛水ウォーク

アヤメと笑顔の花咲き誇る

祝吉地区まちづくり協議会が主催する早水あやめまつりが4月29日、早水公園多目的広場で開催されました。約42万株のアヤメが咲き始めた会場では、恒例のジャンカン馬踊りに加え、このたび完成した「ぼんちくん音頭」が披露されたほか、スケッチ大会も行われました。地区住民によるあやめ音頭総踊りでは、会場から溢れんばかりの人の輪踊りで盛り上がりました。山下孝一実行委員長は「地元の小中学生も、ボランティアとして参加し、地域一体となった祭りが開催できた」と喜んでいました。



早水あやめまつり

都城の魅力をPRする施設が完成

ふるさと納税助成金を活用して整備された道の駅休憩施設の完成セレモニーが4月29日、道の駅「都城」で行われました。オープンテラスやバラソルのほか、都城工業高校インテリア科の生徒らが牛豚鶏など都城にちなんだデザインを施して、設計・制作した机や椅子を設置。制作を指導した同校教諭の菊池則生さんは「耐久性のある九州産ヒノキ材を使用し制作したので、ずっと使える丈夫なもの。道の駅を訪れる皆さんに利用してもらえたらうれしい」と出来栄を誇らしげに話していました。



道の駅「都城」休憩施設完成セレモニー



昔の遊びに子どもたちの笑顔満開

楽しみながら歴史や文化に触れるイベント「島津de端午！」が5月3日から5日、都城島津邸で開催されました。ハンドメイドのアクセサリーや雑貨、飲食店などが軒を連ね、多くの家族連れが来場しました。5日は、熊本城おもてなし武将隊の演舞やぼんちくんのショー、下長飯ジャンカン馬踊りが披露され、イベント広場は大賑わい。そのほか、子どもは手作りのよろいを試着したり、竹馬や竹とんぼなどを年配の人から教えてもらって遊んだりしながら、世代を超えた交流を楽しんでいました。



島津de端午！

旧友が協力して実現させた上映会

高城町出身の神園浩司かみぞうさんが監督し脚本を手掛けた映画「ゆずの葉ゆれて」が5月7日、高城生涯学習センターで上映されました。神園監督の中学高校の同級生らが協力金を募り、実現させた地元での特別上映会に約900人が来場。鹿児島県喜入町を舞台に撮影された、家族愛と郷土愛がテーマの同作品の上映が終わると、感動の声と惜しみない拍手が寄せられていました。神園監督は「同級生らの温かい応援がうれしい。今後も地域に根差した心温まる作品を撮りたい」と力を込めていました。



映画「ゆずの葉ゆれて」上映会

旅を愛した俳人の足跡に触れる

昭和初期に全国を旅し多くの俳句を残した種子田山頭火が、庄内地区を訪れていたことにちなんだ句碑の除幕式が5月7日、消防団庄内分団第28部詰所周辺で開催されました。同地区まちづくり協議会と、都城に山頭火の句碑を建立する会が企画。庄内のおいしい水に感動したエピソードが披露されたほか、建立を記念して募集した俳句の中から優秀作の表彰が行われました。句碑には「あかつきの高千穂は雲かげもなくて」が刻まれ、同地区からの霧島山の眺めに感動した山頭火がうかがわれます。



庄内地区山頭火句碑除幕式

泉佐野市と相互に特産品をPR

5月10日、タオル発祥の地として知られる大阪府泉佐野市と本市が「特産品相互取扱協定」を締結しました。泉州せんしゅうタオルや水ナス、泉州タマネギの産地として知られ、関西国際空港があり、多くの海外観光客が訪れる泉佐野市。泉佐野市の千代松大耕市長は「ふるさと納税で知名度を高めている都城市と相互協定を結ぶことは非常に光栄なこと」と述べ、池田市長は「泉佐野市民や訪れる人に都城市を知ってもらえる機会が増えてうれしい。この縁を大切にして、相互に発展していきたい」と述べました。



泉佐野市と本市との特産品相互取扱協定締結式

見た目も品質も絶品マンゴー

J A都城マンゴー部会が5月15日、宮崎ブランド認証の「太陽のタマゴ」を池田市長へ贈呈しました。市内の4農家が手間暇掛けて育てたマンゴーを試食した池田市長は「切りたては、みずみずしく光り美しい。口いっぱい甘みと香りが広がり、とてもおいしい」と舌鼓を打っていました。政野知和部会長は「生産量は他産地より少ないが、特に品質にはこだわっている」と胸を張っていました。都城産の完熟マンゴーは、6月下旬まで宮崎をはじめ、福岡、広島、京都の各市場へ出荷されます。



JA都城マンゴー生産部会マンゴー贈呈



smiling faces of miyakonojo



宮崎マーク(有) 宮原 和弘さん

—プロフィール—

宮崎マーク有限会社 代表取締役
南横市町在住

カタカタと心地よい音が響く工場内で、一心不乱にミシン作業を続ける女性従業員たち。南横市町にある宮崎マーク有限会社は、読売巨人軍をはじめとするプロ野球チームや、サッカーJリーグチームの公式ユニホームなどに、背番号や選手名を縫い付ける専門の会社です。その代表取締役を務めるのが、宮原和弘さんです。

設立当初は、思うように仕事がなく地道な営業活動が続ける日々が続きましたが、前に勤めていた会社の縁もあり、プロ野球チームの春季キャンプに関わるようになります。キャンプ期間中は、新しい選手の加入や背番号の変更など、ユニホームの急な変更もしばしば。宮原さんは地元の利点を生かし、これらに即時に対応することで信頼を勝ち取り、手掛けるチームの数を徐々に増やしていきました。また、プロのユニホームを手掛ける会社という評判から、現在は、市内のスポーツ少年団などの注文も増えています。

「一人一人文字の数や太さが違うので、その選手に合わせたベストな仕上がりに気を配っている。従業員にも、一針一針、思いを込めて縫うように日頃から指導している」と仕事へのこだわりを話す宮原さん。テレビ中継で、自社が手掛けたユニホームを着た選手が映ると「達成感があり誇らしいのと同時に、背番号の位置にずれがないか気になる」と話します。

ユニホームなので、うれしい反面、とても緊張した」と振り返ります。宮原さんを支えたのは、妻の富喜子さんの存在。富喜子さんが刺しゅうの仕事に携わっていたことが転職のきっかけになり、ミシンの師匠でもありました。「夜中でも休みの日でも、文句も言わず応援してくれた。何があっても一から出直せば大丈夫と、励ましてくれたことで続けてこれた」と感謝を述べます。「これからも妻やいろんな人の力を借りながら、誇りを持って仕事を続けていきたい」と意気込みを話しました。

一針一針に思いを込めた
こだわりの背番号

